

## 大山信仰調査報告

東海大学文化部連合会探検会

三回生 宮田耕輔

### 1、はじめに

神奈川県伊勢原市、秦野市、厚木市の境にある山々の総称である。大山は日本三百名山、関東百名山のひとつとして知られ、かの地における霊山でもある。 狂言の一つに「大山詣り」があることから、その知名度がうかがえる。

浅香幸雄氏の調査によって大山信仰登山集落が形成されたことは判明しており<sup>1</sup>、その信仰形態の一つが霊山としてのものである。

大山は古くから山岳信仰の対象とされており、大山の中腹、および山頂には阿夫利神社（図1）がある。阿夫利とは雨降りを語源としており、もとは雨乞いの地として機能していたようであるが、現地の農家（匿名希望 80代 男性）によれば災害の抑止、祖先霊の地としての意味も持っている様である。

また、山中には数多くの神社を見ることができ、御神体が同じではあるが、そのどれもが異なった役割をもっている。例えば、大山内に稲荷さまを祭った神社が数多くある。しかし、御神体は他の神社と同じく鏡である。また道の途中に小さな社が幾つかあった事も留意しておくべきである（図2）。

### 2、大山と祖霊信仰

大山が祖霊信仰であることは現地に行き、住民の話を聞くこと、また、霊山指定されていることから容易にわかる。また、大山周辺の地域においてお盆の時期に大山のミニチュアと思われるものを玄関先におく風習がある（図3）。このミニチュアの頂上部分にあるものはナスである。ナスは全国的にお盆の時期に祖霊の乗り物としての象徴があり、それが山頂にあるという事は、大山内に祖霊がいるという事を示している様に思われる。

### 3、大山と霧

大山には日常的に霧がかかっている。それは阿夫利神社に設置されている看板にも記されており、住民たちもそう証言している。

霧の根本的な発生条件は大気中における水分の飽和であることから、基本的には雲と大差はない。そのため、空気中の水分が飽和する要因があれば霧は発生するのである。その要因は大きく分けて以下の五つである。

- ・放射霧

地面からの放射熱により、地表面の水蒸気を含んだ空気が冷却されることで発生する。

- ・移流霧

---

<sup>1</sup>浅香 1992 p.p.17-90.

温かく湿った空気が、海面や陸地などの上に移動し、冷やされることで発生する。

- ・ 蒸気霧

温かく湿った空気が、冷たい空気と混ざり発生する。

- ・ 前線霧

温暖前線付近で雨が降り続ける事で、空気中の水分が飽和し、発生する。

- ・ 上昇霧

谷などに沿って暖かい空気が上昇し、空気が露点に達した時点で発生する。

大山は、丹沢と呼ばれるように、沢や谷が多いことで有名である。そのため、放射霧と上昇霧がおきやすいと推察される（図4）。

#### 4、霧と祖霊

人類学の考え方の一つに偶像というモノがある。これは、姿の似ているものが同一の意味を持つという考えである。この考え方をを用いて、霧と祖霊の偶像的理論をたてる。

日本における霊のイメージは以下の通りである。

- ・ 姿は見えるが実態がない（触れない）。
- ・ 白い靄のような姿。
- ・ 恐怖の対象。
- ・ 不可思議な現象を起こす。

これらは強引に言えば霧にも同じことが言える。白く揺らめく姿は見えるが、触ることが出来ず、原理を知らなければ、体が濡れる、前が見えないといった現象が不可思議に起こる。

大山のミニチュアという状況証拠と霧と祖霊という理論証拠によって、日本の大山において、霧と霊の偶像が存在することが考えられる。

図1 阿夫利神社



図2 道中にある小さな社





図3 大山のミニチュアと思われるもの



図4 大山の霧



参考文献

圭室文雄編

1992 『大山信仰』、雄山閣出版。

久野昭著

1997 『日本人の他界観』、吉川弘文館。

千葉徳爾著

1977 『地域と民族文化』、大明堂。

鳥越皓之

1989 『民俗学を学ぶ人のために』、世界思想社。